一般社団法人　熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくまもと

Vol.86



CONTENTS

2・3　会長挨拶　熊本地震から10年、そして新たな地震を経て ～ 感謝を次の支援へ～

4・5　令和8年熊本地震における本会の活動について

6　熊本県社会福祉士会 新理事のご紹介

7　熊本県社会福祉士会　組織図

8　受験対策委員会からの案内/訃報/つぶやき

http://kumacsw.com

Certified　Social　Worker

熊本地震から10年、そして新たな地震を経て
～感謝を次の支援へ～

熊本県社会福祉士会　会長　梅田 孝子









①オンラインでの災害対策会議　②日本社会福祉士会の山下会長（右）と梅田会長（左）　③訪問準備中の会員　④各都道府県からの支援者

二〇一六年熊本地震から十年後、二〇二六年七月二十八日午後四時二十七分、震源地は宇城市、マグニチュード七・一、再び大きな地震が熊本に発生しました。特に宇城市、八代市、氷川町の住宅被害は深刻な状況をもたらしました。また残念なことに三十七名の方がなくなられています。心よりご冥福をお祈りいたします。本会員の皆さまも勤務先、あるいはご自宅、地域等での被災を受けられた方もおられると思います。一日も早く安心した日常を取り戻されることを願っております。

日を追うごとに被害の全容が明らかになり、九月末時点で県内三十一市町村で七万一五一八棟に上りました。特に八代市、宇城市、氷川町では全壊被害が集中し、県全体の全壊被害の約九割を占めるなど、被害の大きさが浮き彫りになりました。

こうした中、全国各地からさまざまな支援が始まりました。本会においても、日本社会福祉士会と連携し、七月二十九日に災害対策本部を設置しました。三十一日には熊本県認知症施策・地域ケア推進課へ設置の報告を行い、八月三日には地域ケア推進課より「被災高齢者等把握事業」が始まる旨の伝達があり、八月十四日には日本社会福祉士会山下会長、牧野事務局長も来熊され、熊本県健康福祉部長久原氏へ協力支援の申し入れを行い、宇城市への「被災高齢者等把握事業」の依頼を受けました。

その後、理事会での承認を経て、日本社会福祉士会と協働で支援活動の具







⑤熊本県健康福祉部の久原部長に支援の申し入れをする社会福祉士会　⑥バリアフリー対応トイレ
⑦支援物資を寄付する熊本県社会福祉士会の会員

体的な打ち合わせや宇城市と包括支援センターとの顔合わせ、被災状況の確認などを経て八月二十四日より事業を開始しました。次の段階として、各県からの支援体制を整え、九月七日からは県外の社会福祉士会からも支援者を派遣していただき、本会会員とともに活動に取り組みました。

この支援活動は十月末をもって終了し、活動日数は四十八日間、活動人員は延べ百七十九名、実人員七十七名（本会四十一名、県外社会福祉士会三十六名）となりました。皆さまには、それぞれのお仕事を抱える中、本事業の趣旨にご理解とご協力をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

今回の災害を通じて、改めて感じたのは、全国、そして九州各地から寄せられた支援と、困難な状況の中でもつながり続けてくれた会員・仲間の存在の大きさです。私たちは支えていただいたことを忘れてはなりません。

災害はいつ、どこで起きるかわかりません。だからこそ、これまでの活動で得た知識や経験、そして人と人とのつながりを大切にし、次の災害に備えるとともに、次世代へと伝えていくことが重要です。これからも、社会福祉士として会として地域に何ができるかと考え、会員ひとり一人の力を結集しながら、災害に強い地域づくりと支援体制の充実に取組んでまいります。

令和8年熊本地震における本会の活動について

災害対策副本部長　窪田 寛史







①高齢者の自宅を訪問する社会福祉士会の会員　②くまむた荘内の災害支援拠点　③支援活動に入る前の情報共有会議（熊本県、宇城市、地域包括支援センター）

二〇二六年七月二十八日の熊本地震の発災を受け、翌二十九日に第一回災害対策本部会議を開催し、災害対策本部を設置しました。梅田会長の職場が被災したため、副本部長が本部長の職務を代行しています。また同日、日本社会福祉士会も対策本部を設置、山下会長、牧野事務局長と連絡を取り合い、連携した災害支援活動を実施していくことを申し合わせています。

先遣隊の活動、臨時理事会で決議を経て、八月十四日に、日本社会福祉士会と本会で熊本県に支援の申し入れを行いました。その際に熊本県を通して宇城市に対して「被災高齢者等把握事業（以下、把握事業）」による支援を依頼されました。宇城市および宇城市地域包括支援センター（以下、宇城包括）等との打合せを経て、八月二十四日から支援活動を開始しています。支援活動を開始するにあたってはオンラインでオリエンテーションを開催し、ソーシャルワークを基盤とした支援活動を展開すること等を共有しました。また、九州・沖縄ブロックの各県士会へも協力を依頼し、幹事県である福岡県社会福祉士会の松岡理事に調整役を担っていただきました。







④宇城市地域包括支援センターで支援活動を行う会員　⑤災害時用水洗トイレカー　⑥活動に使用した車両

本会会員二名と他県士会から二名の一日四名体制で活動を展開。宇城市・宇城包括・熊本県と協議を重ねながら活動を継続し、十月三十日をもって把握事業を終了することとなりました。活動日数四十八日、当会会員四十名、他県士会三十六名の皆様に活動を担っていただきました。

加えて、日本社会福祉士会を通して大塚製薬株式会社様から支援物資をご提供いただき、活動を展開する上で大きな力となりました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

また、活動資金については、把握事業の補助金と併せて公益財団法人ＪＫＡ（競輪・オートレース）の補助金を活用し、ともに日本社会福祉士会から申請手続きを行っていただきました。

宇城市および宇城包括をはじめ、日本社会福祉士会、連日支援活動にご協力くださった九州・沖縄ブロック各県士会の皆様、そして支援活動にご尽力いただいた会員の皆様に心より御礼申し上げます。

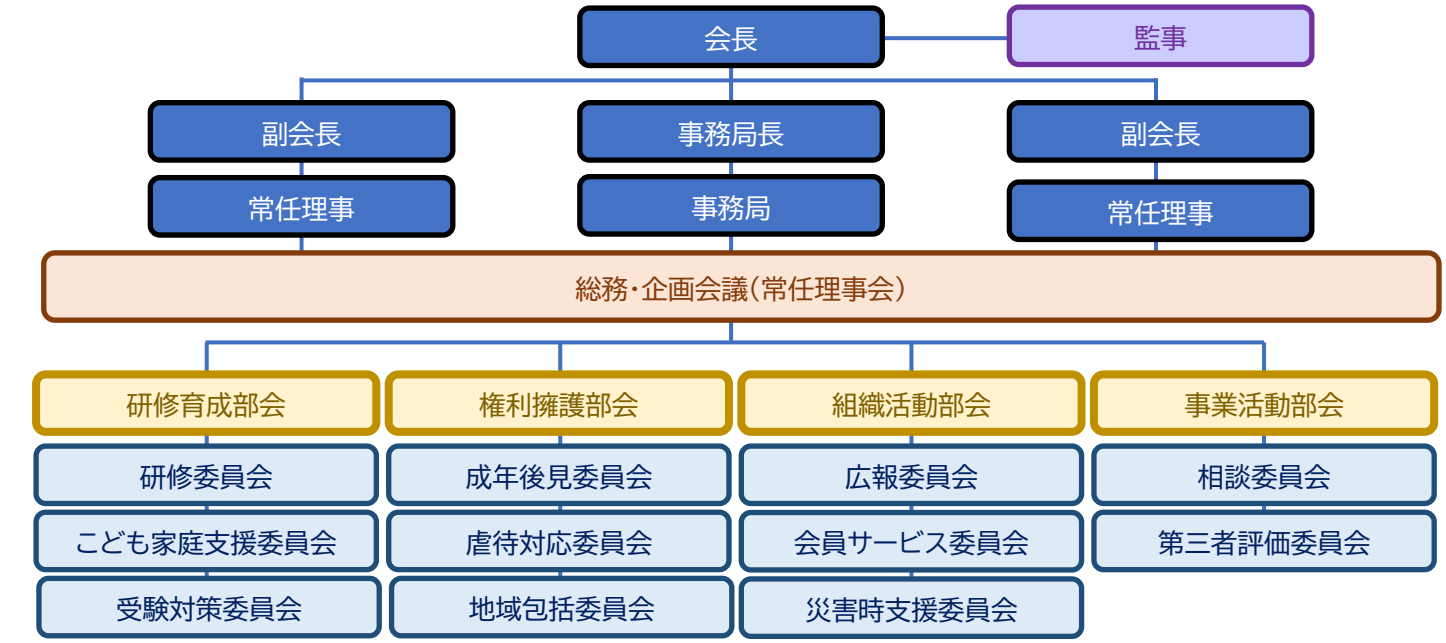
被災地の復興はこれからです。今後も被災地の状況やニーズを見極めつつ、引き続き被災地に寄り添った支援を検討していくことができればと考えております。

新理事のご紹介

2026年6月に開催された定時社員総会において、理事15名が選任されました。任期は、2028年6月開催予定の定時社員総会までです。

常任理事 （広報）  魚谷 康洋 3期目	常務理事 （事務局長）  緒方 誠 3期目	副会長  窪田 寛史 4期目	副会長  髙江 康明 2期目	会長  梅田 孝子 2期目
理事 （子ども家庭）  髙橋 徳昭 2期目	理事 （虐待対応）  堤 信泰 2期目	理事 （地域包括）  中村 洋行 2期目	理事 （成年後見）  福原 建三 2期目	常任理事 （相談）  古賀 友規 2期目
理事 （会員サービス）  田中 智也 1期目	理事 （災害時支援）  遠山 健吾 1期目	理事 （研修）  勝本 映美 1期目	理事 （第三者評価）  安枝 宏章 2期目	理事 （受験対策）  横手 由利 2期目

熊本県社会福祉士会　組織図





委員会名	委員長	委員数
情報管理委員会	窪田 寛史	9名
ハンセン病問題相談・支援センター りんどう	センター長　梅田 孝子 副センター長　西 章男	6名
相談委員会	松並　大輔	13名
成年後見委員会	木野 寛子	140名
地域包括委員会	伊地知 剛	14名
虐待対応委員会	堤 信泰	21名
研修委員会	野尻 大輔	10名
受験対策委員会	山西 一成	9名
第三者評価委員会	高宗 由美子	18名
広報委員会	田上 緒	9名
会員サービス委員会	久保田 享治	6名
災害時支援委員会	山北 翔大	15名
こども家庭支援委員会	福原 真理子	22名

ブロック名	ブロック長	会員数
熊本市中央ブロック	山本 千香子	113名
熊本市東ブロック	田中 希	108名
熊本市西ブロック	佐藤 英二	45名
熊本市南ブロック	中田 慈子	60名
熊本市北ブロック	齋藤 猛人	64名
荒玉・山鹿ブロック	永田 恵里香	90名
菊池・阿蘇ブロック	小西 豪志	83名
上益城ブロック	増田 史弥	34名
宇城ブロック	松岡 孝幸	45名
天草ブロック	田尻 龍一	50名
八代ブロック	垣原 勝美	45名
水俣・芦北ブロック	一川 智礼	40名
人吉球磨ブロック	平山 猛	40名

2026年度 第１回 社会福祉士全国統一模擬試験実施報告及び、第２回 社会福祉士全国統一模擬試験のご案内

受験対策委員会 委員長 山西 一成



今年度の第1回全国統一模擬試験を9月27 日(日)熊本学園大学にて実施しました。
参加者は16 名でしたが、本番の国家試験に近い雰囲気での受験となりました。
当委員会が、社会福祉士を目指す方の一助となり、将来ともに現場で活躍できる仲間が増えることを期待しています。
また第2回模擬試験を12月6日(日)に熊本学園大学で実施します。どうぞよろしくお願い致します。

訃報

このたび、本会元会長の後藤征之様が、二〇二六年九月十四日に八十六歳で逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

後藤様は、熊本県における社会福祉士の活動基盤の確立と、地域福祉の推進に大きく寄与されました。また、社会福祉の現場に真摯に向き合い、専門職としての社会福祉士の役割や可能性を広げるとともに、次代を担う人材の育成にも力を注がれました。その歩みは本会の歴史に深く刻まれ、後に続く私たちにとって大切な指針となっています。

これまで本会ならびに地域福祉の発展に寄せられたご尽力に、あらためて深く敬意を表し、心より感謝申し上げます。後藤様のご遺志を受け継ぎ、社会福祉のさらなる発展に努めてまいります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

二〇二六年十一月

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
会長 梅田 孝子

CSWくまもと86号

【事務局】
一般社団法人
熊本県社会福祉士会
熊本市東区健軍本町1-22
東部ハイツ105

TEL 096-285-7761
FAX 096-285-7762
Mail office@kumacsw.com

発行責任者 梅田 孝子
編集責任者 田上 緒
発 行 月 2026年11月

つぶやき

二〇一六年の熊本地震の時は、仕事をせずに祖母を自宅で介護していて社会福祉士になるための勉強中でした。水道の水が濁っている。食料の確保が困難なこと等から避難所に数日間生活をさせてもらいました。そこで、自衛隊の方々の配給や救援物資等の支援のありがたさを知りました。そんな中、親亡き後に、仕事もせずに、ひとりぼっちで暮らしていくのだろうかと今後のことを考えるとすごく不安な日々をすごしていました。

社会福祉士となり、地域のボランティアという形で体をならしてから、縁あって合志市社会福祉協議会の方で仕事をさせてもらっています。今回の地震では、大きな揺れがあって家の茶碗が割れたりしましたが、被害が少なく次の日から仕事に行けていました。二回の熊本地震で感じたことは、家族、職場、地域とのつながりがあると、何か困ったときに助けを求められる。また、仕事や趣味に没頭できる何かを持っておくと気を紛らわすことができると思います。自分ではどうしようもないときは、周りに助けを求めると振り向いてくれる方はおられるので、大変でしょうけどみなさん前を向いていきましょう！

（広報委員会 古川）